

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第74回理事会議事録

日時:令和5年9月28日(木) 15:00~17:00
開催:ロイトン札幌2階ハynesホール(北海道札幌市中央区北1条西11丁目)
出席者:大賀 正一(理事長)、菱木 知郎、真部 淳(第65回学術集會會長)小川 千登世、
奥山 宏臣、塩飽 仁、多賀 崇、高橋 義行、滝 智彦、家原 知子、大植 孝治、
加藤 元博、富澤 大輔、義岡 孝子、(以上理事)
淵本 康史、堀 浩樹(以上監事)
足立 壮一(第66回学術集會會長)、田尻 達郎(第67回学術集會會長)
欠席者:藤 浩、山崎 文之、余谷 暢之(以上理事)

冒頭に、本日の理事出席者数は理事18名中14名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、理事大賀 正一は議長となり、議長席に着き審議に入った。

I. 前回議事録(案)の確認

議長より、前回理事会議事録(案)、定時社員総会議事録(案)が示され、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

II 審議事項

1. 入会申請者の件

庶務・財務委員会の菱木担当理事より、現在の会員数の報告とともに、入会申請者が示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

2. 日本専門医機構サブスペシャルティ領域専門医の申請に関する必要事項について

専門医制度委員会 富澤理担当理事より、日本専門医機構サブスペシャルティ領域専門医の申請に伴い、各領域の「整備指針」と「カリキュラム」の作成について、各サブスペ領域内に検討会(仮)設置の必要があり、偏りのない検討会とするため、他領域の委員の推薦を日本小児科学会へ依頼するための「小児血液・がん領域専門医検討ワーキンググループ」の設置、および、同学会に提出する委員推薦依頼書についての承認が求められ、異議なく承認された。

3. 研究助成規約・募集要項の作成について

規約委員会 滝担当理事より、若手研究者を対象とした「研究助成」の規約が示され議場にその承認が求められたところ「若手小児血液・がん研究者のための臨床研究助成規約」として異議なく承認された。応募要項については学会賞等選考委員会にて作成された要綱を、再度規約委員会にて確認することとなった。

4. 定款施行細則(理事・監事、理事長選任)の改訂について

規約委員会 滝担当理事より、定款施行細則(理事・監事、理事長選任)の改訂について資料に示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された

5. 2024年役員選挙の実施と選挙管理委員の選任について

2024年に実施する役員選挙について、被選挙権を有さない評議員の中から奥山宏臣氏、工藤寿子氏、副島俊典氏が推薦され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

6. 学術集會時総会(臨時社員総会)次第について

学術集會時総会(臨時社員総会)の次第について資料に示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

7. 日本医学会シンポジウムテーマ案募集と組織委員(2名)の提案依頼について

日本医学会からの日本医学会シンポジウムテーマ案の募集と組織委員の推薦依頼については、小児領域全体としてサブスペ5領域から演者を選出するなどとし、小児科学会より提案をしていただくようお願いいただく方針となった。また、組織委員についても同様の対応とし、分科会としての提案・推薦を求められた際には改めて検討することとなった。

8. エファネソクトグ アルファの在宅自己注射指導管理料の保険適用に関する要望書について

保険診療委員会 小川担当理事より、日本血栓止血学会から依頼のあったエファネソクトグ アルファの在宅自己注射指導管理料の保険適用に関する要望書について、保険診療委員会にて審議を経て議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

III. 報告事項

1. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会報告

真部会長より、明日からの第65回学術集会について開催直前の報告がなされ、予定されているプログラムその他、最終日の閉会式後に記者会見が予定されているなどの報告が行われた。

2. 第66回日本小児血液・がん学会学術集会報告

足立会長より、2024年12月6日(金)～8日(日)の日程で開催される第66回学術集会について、現地組織委員会を設置し、学術集会プログラム委員会と協力し、現地開催と一部オンデマンド配信で計画中である旨が報告された。

3. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会報告

田尻会長より、2025年11月19日(水)～21(金)の日程で開催される第67回学術集会について、会場を検討中であることが報告された。

4. 研究審査委員会報告

研究審査委員会家原担当理事より、下記について報告された。

(1)「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」研究実施計画書改訂において、学術調査委員会との調整についてを行った。

研究審査委員会内規(2022年11月24日制定)の変更を反映した文言に改訂する事を承認した。以下、実施計画書「8. データの二次利用」より抜粋。

改訂前:

これらの目的のもとに本研究事業のデータの提出を依頼する場合には、別途研究計画書を作成し、日本小児血液・がん学会学術・調査委員会に提出し、研究審査委員会の審査承認、および理事会の承認を得るものとする。

改訂後:

これらの目的のもとに本研究事業のデータの提出を依頼する場合には、別途研究計画書を作成し、日本小児血液・がん学会学術・調査委員会に提出し、その後、研究審査委員会の審査承認の承認を得るものとする。

(2) 研究審査の実施について(承認2件、審査中2件)

5. 学術・調査委員会報告

学術・調査委員会木下担当理事より、疾患登録 2022年集計結果について資料に示され報告された。

6. 専門医制度委員会報告

専門医制度委員会富澤理担当理事より、下記について報告された

(1) 専門医試験

2023年9月16日および17日に第9回小児血液・がん専門医試験を、9月16日に第2回小児がん認定外科医試験を実施。

小児血液・がん専門医試験:27名→合格26名

小児がん認定外科医試験:5名→合格4名

なお2024年度より、小児血液・がん専門医認定新規申請および資格更新の際に、緩和ケア研修会(CLIC)受講歴が必要となる。

(2) 専門医研修施設現況調査

2023年5月19日～6月9日の間に、日本小児血液・がん学会専門医制度研修「施設群」における実地調査をWEBアンケートにより実施。105/105施設(親施設45、子施設60)より回答を得た。常勤専門医数1名が32施設、常勤指導医1名以下が67施設、認定外科医常勤ゼロは親施設2施設(うち1施設は子施設になることを表明している)、子施設43施設、同1名は親施設28施設、子施設13施設と、最低限の体制で運営している研修施設が多いことが示唆された。

(3) 日本専門医機構サブスペシャリティ領域専門医への申請

日本専門医機構による新規のサブスペシャリティ(サブスペ)領域専門医の募集に対して、日本小児科学会からは当学会を含めて5領域(神経、循環器、血液・がん、臨床遺伝、新生児)が機構認定を目指し、2023年2月16日に小児科学会事務局より機構にレビューシートを提出。この間に、機構においてサブスペ専門研修細則が改訂され、サブスペ専門医が3つのカテゴリーに細分化され、小児血液・がんを含めた小児サブスペ領域が認定される場合は「カテゴリー1(機構が必要と考えて、指定する領域)」での認定になる見込みである。

今後、機構によるレビューシートの承認の有無についての連絡が10月頃の見込み。承認された場合は、各領域で「整備指針」と「カリキュラム」の作成が必要になる(11月前半までに小児科学会事務局に当学会としての完成版を提出、小児科学会を通じて機構への最終提出〆切は12/20)。

なお、承認後に上記作業を進めるにあたって、各サブスペ領域内に検討会のための組織「小児血液・がん領域専門医検討ワーキンググループ」の設置を検討している。

(4) 専門医制度委員会における事務作業の効率化と軽減の必要

専門医制度委員会は委員長1名、副委員長1名、委員10名の計12名体制で、小児血液・がん専門医/指導医および小児がん認定外科医の認定、資格更新・喪失・取り消しに関する実務、小児血液・がん専門医研修施設の認定、資格更新・喪失・取り消しに関する実務、専門医制度の改革およびそれに附随する規則・施行細則の改正および改訂の検討等の多岐にわたる業務を担っている。事務局作業も過重であり、新委員会体制になった2022年11月以降だけで2名の事務局担当者が体調不良により交代)以上を踏まえて、当委員会における事務作業の効率化を目指し、申請書類の不備対応の簡素化、研修実績や学術業績登録のオンライン化などを進めることを検討。

7. 保険診療委員会報告

保険診療委員会 小川担当理事より、保険診療委員会で対応した下記について、報告された。

1) 3-ヨードベンジルグアニジン(131I)(MIBG-I 131 静注)の難治性神経芽腫における開発要望について、2010年に未承認薬検討会議に個人から提出されていた要望が検討会議にかけられることとなり、保険診療委員会より要望書を提出した。

2) 患者会「神経芽腫の会」が提出した未承認薬・適応外薬の要望書について

患者会よりナキシタマブの「再発/難治性高リスク神経芽腫」に関する要望書が厚労省へ提出され、本件について厚労省より見解を求められる際には保険診療委員会にて対応する。

6. ゲノム診療・細胞療法委員会報告

大賀理事長より、ゲノム診療・細胞療法委員会の活動の一環として、関連勉強会の支援を、JCCG

との連携も図りながら積極的に行うことについて提案された。

7.理事長報告

大賀理事長より、10月20日に韓国で開催される KSPHO の学会で日本の小児血液・がんの活動についての講演が予定されていることが報告された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和5年9月28日

日本小児血液・がん学会 第74回理事会

理事長 大賀正一

監事 湊本康史